

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 7 月 9 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	水越 楓

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
北海道羅臼
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
北海道に来遊するシャチの鳴音調査
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 6 月 24 日 ~ 平成 26 年 7 月 2 日 (9 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
斎野重夫氏、Uni-HORP
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

はじめに

北海道羅臼沖にて、毎年来遊するシャチの個体識別調査、鳴音調査を行った。チャーター船に同乗させてもらう形で調査を行った。6/27~7/1 の五日間出港した。5 月には確認することが出来なかったシャチの来遊を確認、データの取得をすることが出来た。

シャチの観察・録音等

今回五日間のうち、四日シャチを発見することに成功した。しかし、国後島側に行っていたこともあり、しっかりと観察・録音を行えたのは三日であった。行動は、遊泳速度・方向や群れの分散状況などから総合的に考えて判断した。個体識別用の写真を撮るためにはある程度まで近寄らなければならない、そうすると船が行動に影響を及ぼしてしまうので、なかなか自然な状態のデータを取ることは難しかった。

鳴音の録音は今まで通り曳航式のマイクにて行った。今後チャーターでない観光船でのデータ取得を視野にいれて手持ちマイクでの録音も試みたが、停船状態でないと難しいため断念した。



写真 1 調査の様子



写真 2 羅臼のシャチ

全体を通して

5 月の羅臼には見られないマッコウクジラがよく観察された。今年はシャチが羅臼沖に来遊する時期がずれたが、マッコウクジラは例年通りの様子であった。地元の観光船の情報からしても、今年のシャチの来遊は少なかったとのことで、何が原因となっているのかを考えていかなければならないと感じた。

今後の予定

今回得られたデータとともに、今まで集めたデータをまとめて解析、個体識別データとの照合を行う予定である。次の調査予定は釧路での 10 月中旬頃のため、それまでにまとめ、可能であれば PWS 中間シ

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

ポジウムのパスター発表に組み込みたいと考えている。

6. その他 (特記事項など)

今回のクルーズに同乗させてくださった、斎野重夫さん、Uni-HORP チームの東海大の大泉宏先生、佐々木史織さん、水野志保さん、常磐大学の中原史夫先生、知床ネイチャークルーズ、尾田建設 観光船はまなすの浜松貢船長、杉田知香さんにお礼申し上げます。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)